

平成30年12月25日

東松島市議会議長 阿部 勝徳 様

(会派名) 市民クラブ

代表者氏名 佐藤 富夫 

### 会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目(該当を○で囲む)

調査研究費、研修費、広報費、広聴費、要望・陳情活動費、会議費

2 活動名称: ① 沖縄県南城市の行財政改革と  
② “ ” の自衛隊基地事情について

3 実施期日: H30年11/5 ~ 11/7

4 活動成果: 別紙政務活動報告書により

① 震災前の改財政改革の基本方針の遂行と  
更なる行革の加速を認識

② 普天間問題の複雑な懸案、国際紛争に  
発展しない、沖縄基地の現状の認識

5 添付書類:

① 南城市の行財政改革資料

② 那覇基地資料



# 政務活動報告（別紙）

平成30年11月5日～11月7日  
東松島市議会 会派「市民クラブ」

## 1、11月5日

糸満市摩文仁の丘「平和祈念公園」宮城県沖繩部隊戦没慰霊碑に参拝（航空自衛隊松島基地 高橋監理部長案内）

\*他に日本全国各県の戦没者名の碑があって、現地ボランティアの説明により沖繩決戦の悲惨さを認識、改めて平和の貴さを感じてきた。日没により宿泊地へ。

## 2、11月6日 高橋監理部長案内により沖繩内の基地視察

### 1) 普天間基地

視察受け入れは難しいとの事で嘉数高台より基地全体を展望（沖繩防衛局高橋氏説明～米軍基地のため資料は無し）

ア、基地の規模：オスプレイほか戦略ヘリなど概ね60機が駐機していたが、離着陸は確認出来なかった。面積は宜野湾市19、8km<sup>2</sup>の24、4%を占める。ベットタウンのど真ん中であり直近には普天間第2小学校がある。基地は民有地で地主3200人、年間地代60億円、全て国民の税金である。

### イ、基地移転に関する住民感情

普天間周辺住民は1日でも早く、地主と多数の基地関係従業員は困る。移転先の辺野古地区は概ね歓迎（移転により交付金・雇用などの恩恵）の裏事情もあって今時点では、マスコミが喧伝している様な実情では無いとの事。

### 2) 那覇基地：南西航空地方面隊

ア、基地の実情：航空自衛隊那覇基地は民間航空会社との共用である。従って滑走路の使用はスクランブル発進が民間より優先であり、非常に過密状態で現在新滑走路を建設中である。近年は中国あるいはロシアからの飛来が多数あって緊急発進は近来1000回を超える状況になっている。規模・活動については別紙資料の参照となるが、改めて常在戦場の感を強くしてきた。

イ、基地と経済の関係：詳しい説明は無かったが、観光資源の収入はあるにしても沖繩振興予算と防衛予算なくして沖繩経済は成り立たないと思料される。

### 3) 第5高射砲群

同基地に属するミサイル基地である。わが国に侵攻する航空機および弾道ミサイルなどをペトリオットミサイルで破壊する事を任務としているが、実射訓練は事故防止の関係から、米国で行っているとの事。迎撃は戦闘行為となるので実績は無いとの事である。

\*基地関係については別紙参照

## 3、11月7日 沖繩県南城市役所 「行財政改革について」

### 1) これまでの取り組み

平成18年1月、旧佐敷町を中心に4町村合併により市制を施行した。その際新市建設計画のキーワードに「効率的な行財政運営の推進」をしてきた。平成22年11月には「第2次南城市行政改革大綱」を策定。翌年には、80項目の集中改革プラン策定。これ自体は東松島市の震災前の目標と同じではあるが、様々な特徴的な改革に取り組んできた。

### ア、集中改革プランの例

ア) 事務事業評価 イ) 補助金の適正化 ウ) 保育所の民営化 エ) 初期イン管理の適正化 オ) 市民窓口の一部民営化 カ) 庁舎デマンドコントロール

キ) 4庁舎の整理統合等であるが詳細については別紙参照

\*所見：沖繩振興特別推進交付金は県全体で約4000億円の予算的が有り、事務執行のやりやすい部分もあるが合併特例債の32年度終了、普通交付税の大幅削減が予想される。この事の危機感は本市と同じであり、行財政改革は避けて通れない問題である。南城市は18年合併当時から高度な意識を持って進んできた経緯があり「第3次」を策定し現在進行形である。本市は東日本大震災を経験したとは言え、復旧復興、人心安定についても集大成の時期に来ている。行財政改革に終わりはない。本市のこの件についての加速を期待したい。